

「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

 : 構成員限り

質問1-1

光ケーブルごとの単価を種類別及びビル別に示していただきたい。また、1ケーブル当たりの投資単価をどのように算定したのか示していただきたい。【佐藤構成員】

回答

- 投資額シミュレーションに使用した1kmあたり単価は以下の通りです。これらの単価は、直近の通信建設会社との間の契約単価を元に、ケーブル1kmを既存の管路や電柱に敷設する際の工事費及び物品費を積算したものです。なお、電柱建設や管路掘削・埋設に係わる費用は含まれておりません。

		地下ケーブル				架空ケーブル		
		100芯ケーブル	200芯ケーブル	400芯ケーブル	1000芯ケーブル	40芯ケーブル	100芯ケーブル	200芯ケーブル
東日本	投資単価							
		地下ケーブル				架空ケーブル		
		100芯ケーブル	200芯ケーブル	400芯ケーブル	1000芯ケーブル	40芯ケーブル	100芯ケーブル	200芯ケーブル
西日本	投資単価							
		地下ケーブル				架空ケーブル		
		100芯ケーブル	200芯ケーブル	400芯ケーブル	1000芯ケーブル	40芯ケーブル	100芯ケーブル	200芯ケーブル

「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

：構成員限り

質問1-2

追い張りの場合の投資額算出方法を詳しく教えていただきたい。

新宿ビルを例とした場合、地下ケーブルの敷設本数を[]としているが、追い張りのメリットが芯線使用率を高めることであるのであれば、[]にするなど、もっと敷設本数を減らして使用率を高めることができるはずだが、そうせずに余裕を持たせている理由は何か。また、余裕を持たせるとしても、[]本敷設するとした数的根拠は何か。

また、例えば、新宿ビルの架空ケーブルは、追い張りの場合の芯線使用率が[]理由は何か。
【佐藤構成員】

回答

- 今回お示した数値は、未利用芯線を最少化するようにケーブルを敷設していく場合を想定し、方面別に敷設されている各ケーブルの使用芯線数を、最少芯数のケーブルで満たすように敷設していくと仮定した投資額を試算したものです。
- 架空ケーブルにおいて、最少となる40芯ケーブルについては施設比率が高く、試算値も現状と同様の芯線使用率となること等から、追い張りした場合の芯線使用率は地下ケーブルほど上昇しません。
[]
- また、当社においては、軽量のケーブルを用いることによる風雪被害を防止する観点や複数回工事を行うことが困難な地域（河川等）に対応する観点から、幹線区間において主に用いている架空ケーブルの最少芯線数を40芯としています。

「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

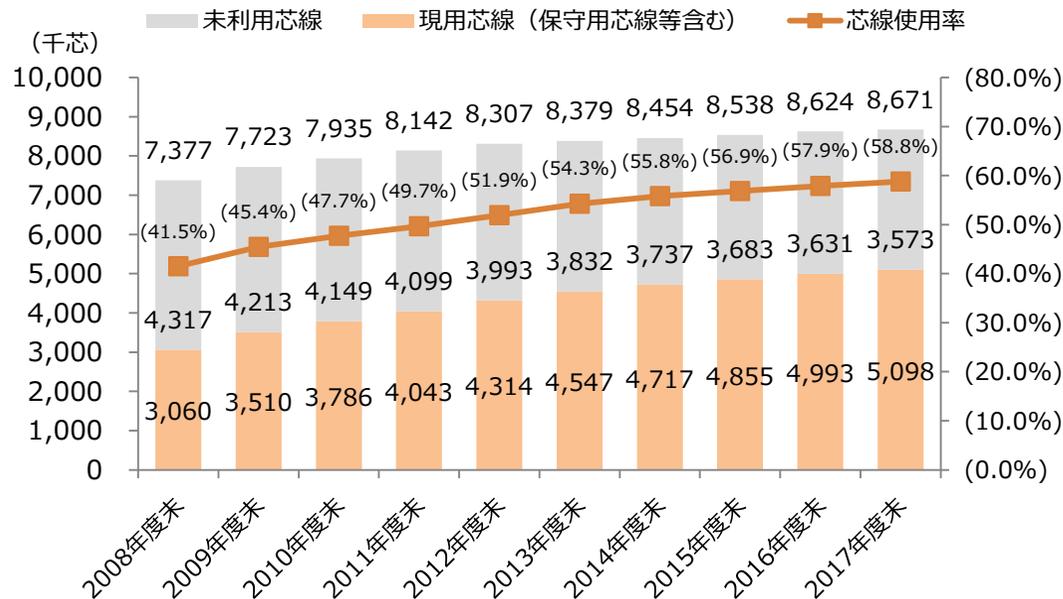
質問1-3

投資の効率性について理解を深めるため、現況のスナップショットではなく、時間軸でデータを見る必要があり、光の投資、および使用率について過去から現在までの推移を（東西別等）可能な範囲ブレイクダウンして示していただきたい。【佐藤構成員】

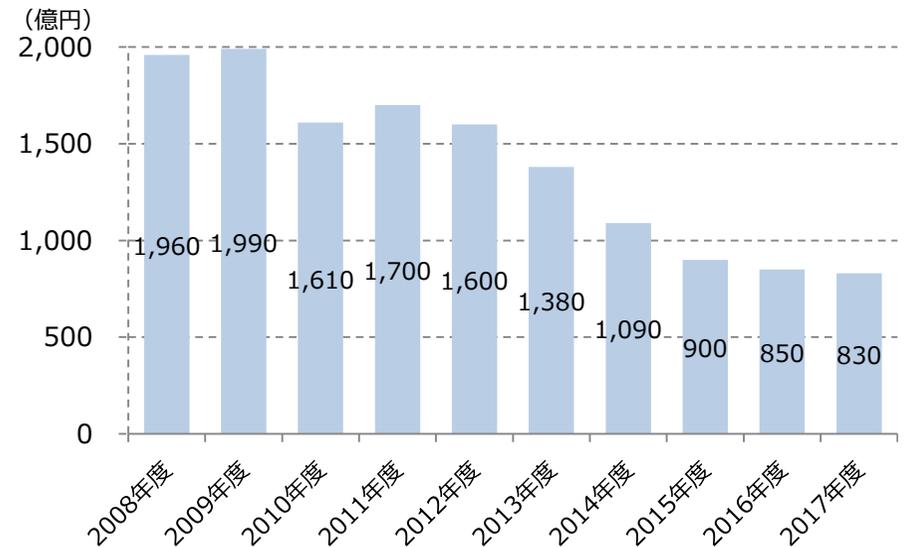
回答（NTT東日本）

- 全国マクロで把握できている加入光ファイバの芯線使用率は、当社収容ビルからの局出し区間となり、過去10年間における芯線数・芯線使用率および光化投資額の推移は以下のとおりです。
- これ以外にも、芯線使用率を時間軸で捉えたデータについてお示しできるものがないか検討を進めています。

【東日本】芯線使用率の推移



【東日本】光化投資額の推移



「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

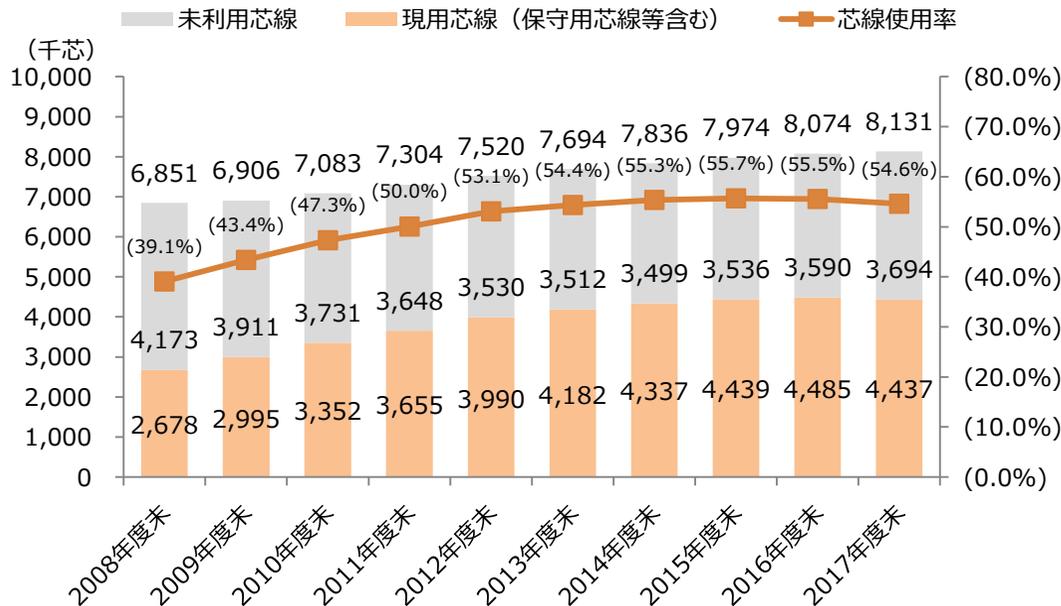
質問1-3

投資の効率性について理解を深めるため、現況のスナップショットではなく、時間軸でデータを見る必要があり、光の投資、および使用率について過去から現在までの推移を（東西別等）可能な範囲ブレイクダウンして示していただきたい。【佐藤構成員】

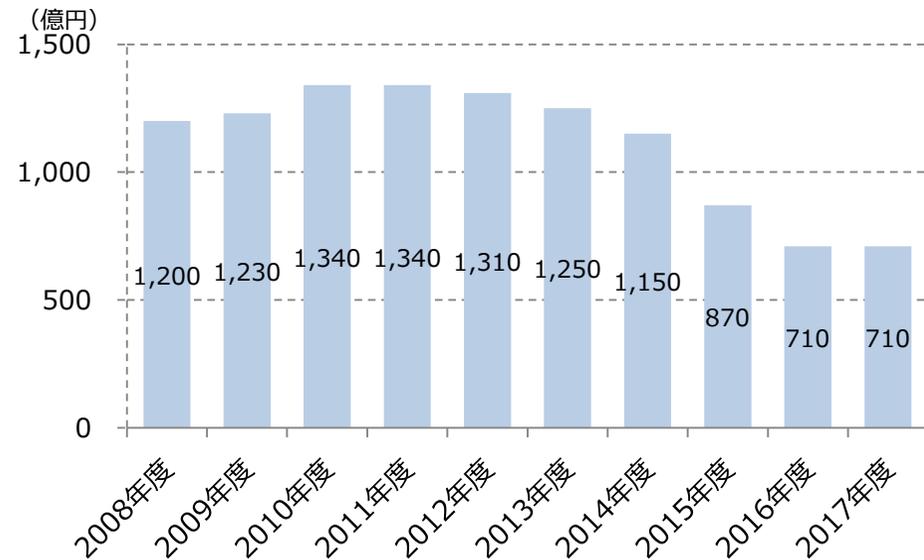
回答（NTT西日本）

- 全国マクロで把握できている加入光ファイバの芯線使用率は、当社収容ビルからの局出し区間となり、過去10年間における芯線数・芯線使用率および光化投資額の推移は以下のとおりです。
- これ以外にも、芯線使用率を時間軸で捉えたデータについてお示しできるものがないか検討を進めています。

【西日本】芯線使用率の推移



【西日本】光化投資額の推移



「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

質問1-4

大規模、中規模の概念について東西で規模感が異なると考えられるが、大規模、中規模、小規模の定義はどのように定めているのか（例えば、何芯以上が大規模）。また、サンプル調査対象として、どういう基準でこの6つのビルを選んだのか。【佐藤構成員】

回答

- 今回の調査において、大規模、中規模、小規模に収容ビルを分類した際の考え方は以下のとおりです。
 - 大規模：主要都市の中心地
 - 中規模：主要都市以外の県庁所在地や中核都市
 - 小規模：地方圏かつ県庁所在地や中核都市以外の都市
- また、サンプルビルの選定にあたっては、災害対応等を優先させる観点から東日本においては北海道エリア、西日本においては大阪エリアのビルは除いた上で、エリアが偏らないように選定しています。

「接続料の算定に関する研究会」（第15回）に対する追加質問（回答）

1. レートベースの厳正な把握について

質問1-5

管路の敷設の説明では、管路の直径が75mmが基本になっているが、75mmより直径が小さい管路はないのか。もしそうであれば、最小の直径を75mmとされた理由は何か。

米国では、管路はもっと細いものがあり、アスファルトやコンクリートを掘らずに、切削して管路を敷設していると聞いている。これならコストが引き下げられるが、このような手法は採用できるのか。

また、管路のために道路を掘り起こす場合、その管路の中に収納したいものを持つ業者がいると、共同で溝を掘られるように、情報を公開していると聞いている。共同溝などはあるか。【辻座長】

回答

- 当社が利用する管路は直径75mm、50mm、25mmの3種類がありますが、管路を敷設するコストは殆ど変わらないことから、局出し区間において75mm管路を主に用いている実態を踏まえ、第15回研究会において、75mm管路を用いる場合を説明したものです。なお、直径50mm、25mmの管路については、ハンドホールやお客様宅への引き込み区間に主に用いています。
- 当社は、道路法施行令に規定されている管路の埋設基準※1に基づき、各道路管理者と協議の上、管路の敷設を行っています。なお、国土交通省において、低コストでの無電柱化の整備促進にむけ、「浅層埋設方式※2」や「小型ボックス活用埋設方式※3」といった手法が検討され、「道路の無電柱化低コスト手法導入の手引き」が2019年3月に正式に発出される予定となっています。当社としては、こうした新しい手法等の動向を踏まえつつ、引き続き効率的な設備構築に努める考えです。
- また、道路管理者により定期的に開催される道路調整会議において工事時期や施工方法等の調整を行い、他の施工事業者と共同で管路を掘削・敷設することで費用を按分する共同施工を実施しております。なお、共同溝には無電柱化を行う際に整備される電線共同溝等があります。

※1 車道：80cm以上、歩道：60cm以上

※2 管路を従来よりも浅い位置に埋設する方式

※3 管路の代わりに、低圧電力線と通信線を同時収容する小型のボックスを設置する方式